

派遣講師選手一覧



川上 秀太

アスピカ 所属
出身地:福井県

(福井県 在住)

＜講演テーマ＞

「見えないからこそその気づきが強くした」

「障害の壁を越えた挑戦」

「障害は個性でしかない」

＜プロフィール＞

小学3年の時に交通事故にあり、視覚障がい者となった。中・高校生までは健常者の大会に出場し、2023年にパラの世界へ。パリパラリンピックでは、視覚障がいの100mでは36年ぶりとなる銅メダルを獲得し、2025年にはニューデリー世界パラ陸上で自身初となる金メダルを獲得した。



石山 大輝

トヨタ自動車 所属
出身地:愛媛県

(千葉県 在住)

＜講演テーマ＞

「1つの投稿から日本代表へ」

＜プロフィール＞

小学校時代から水泳、バスケットボールに取り組み、中学から陸上競技部に所属。高校では、3年時に三段跳びで三重インターハイに出場したが、同時に「網膜色素変性症」と診断された。「J-STARプロジェクト」に応募をして、パラ陸上の世界へ。2024年のパリパラリンピックに出場し、日本選手団の旗手も務めた。



新保 大和

アシックス 所属
出身地:兵庫県

(東京都 在住)

＜講演テーマ＞

「結果を引き寄せる志向力-成功をデザインする思考法」

「最高のパフォーマンスを引き出すコーチングとは？」

「成果を出し続ける力-持続可能な挑戦のために」

＜プロフィール＞

出生時に先天性脳梗塞が発覚。幼少時はリハビリに通いながら、空手や水泳を習い事として通った。中学から陸上部に所属し、円盤投げと砲丸投げに取り組み、兵庫県新人大会で8位入賞。2019年の世界ジュニアでは砲丸投げと円盤投げで優勝し、2025年のニューデリー世界パラ陸上では、円盤投げで銀メダルを獲得し、自身としてはシニア大会での初メダル獲得となった。

派遣講師選手一覧



松本 武尊

AC KITA 所属
出身地: 東京都

(千葉県 在住)

＜講演テーマ＞

「作業療法士になりました」

「人生がリハビリテーション」

＜プロフィール＞

3歳の頃から水泳・野球・サッカー・スケートに打ち込み、中学から陸上を始めた。2018年に突然「脳動静脈奇形」という病に襲われ、脳性麻痺となった。世界パラ陸上競技選手権大会ではユニバーサルリレーに登場し、金メダルを獲得。2024年のパリパラリンピックでは、400mで4位に入賞した。



伊藤 竜也

新日本工業 所属
出身地: 福井県

(福井県 在住)

＜講演テーマ＞

「Re:Start」

＜プロフィール＞

17歳の時にバイク事故で頸椎を損傷し車椅子生活に。それまでは夏は野球や柔道、冬はスキーなど色々なスポーツをしていた。30歳の時に障害者スポーツ大会の観察に行き、そこでレーサーと出会い、競技開始からわずか2年足らずで100mの当時のアジア記録を更新。パリパラリンピックでは100mで8位に入賞した。



山崎 晃裕

順天堂大学 所属
出身地: 埼玉県

(千葉県 在住)

＜講演テーマ＞

「ハンデがあるから面白い」

＜プロフィール＞

右手首から先がない状態で生まれるが、幼少期から高校生まで健常者と共に野球に打ち込んだ。大学1年時に障害者スポーツと出会い、2014年には、障害者野球の日本代表に選出された。パラリンピックを見据え、陸上競技に転向し、東京2020・パリ2024パラリンピック日本代表として2大会連続入賞した。

派遣講師選手一覧



高桑 早生

NTT東日本 所属
出身地:埼玉県

(東京都 在住)

<講演テーマ>

「夢をちからに」

「パラリンピックの挑戦を通じて学ぶ目標達成の過程」

「パラリンピックへの挑戦の先に見える未来~

ハラスポートの可能性~」

<プロフィール>

13歳の時に骨肉腫を患い、左下腿を切断。高校から陸上をはじめ、2012年、初出場となるパラリンピックロンドン大会で100m・200mで決勝進出を果たした。その後モリオ2016、東京2020、そしてパリ2024と4大会連続でパラリンピックに出場した。



若生 裕太

三菱オートリース 所属
出身地:東京都

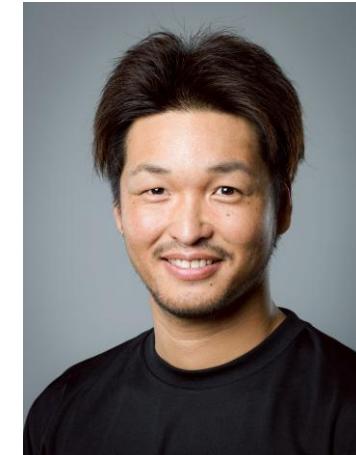
(東京都 在住)

<講演テーマ>

「人生すべてポジティブ要素」

<プロフィール>

小学1年生から野球を始め、高校は甲子園出場経験のある日大鶴ヶ丘高校へ。20歳の頃にレーベル病を発症し、パラ陸上の世界へ。競技開始からわずか1年後の2019年に日本記録を樹立。2024年には、パリパラリンピックに出場し、やり投げで7位に入賞した。



渡辺 勝

TOPPAN所属
出身地:福岡県

(福岡県 在住)

<講演テーマ>

「目標達成への道筋」

「車いすマラソンって知っとお?」

<プロフィール>

幼少期からスポーツ大好きで、中学校から野球を始め、福岡県代表選抜チームに投手として選出。全国大会初先発のマウンドで、完全試合リレーを達成。全国ベスト8になった。高校卒業後には、体力を活かし鉄工業に就職。自らの運転する車で事故を起こし、脊髄損傷による車いす生活に。2013年にリヨン世界パラの日本代表に選出され、現在は、メジャーマラソンに参戦中。2017年東京マラソンで優勝した。

派遣講師選手一覧



福永 凌太

日本体育大学大学院所属
出身地:滋賀県
(東京都 在住)

〈講演テーマ〉

『挑戦が変えた世界』(自己啓発)

『キングオブパラアスリート』(スポーツ)

『君たちには何が見える?』(人権)

〈プロフィール〉

小学校時代に視覚に難病が発覚しながらも、同時期に陸上競技に取り組み始め大学まで健常者として競技に打ち込んだ。中学・高校時代には棒高跳びを専門とし、中学では近畿大会3位、高2高3時には全国インターハイ・国体にも出場。大学は推薦のあった中京大学へと進学、新たに混成競技(十種競技)に挑戦し全国レベルの選手たちと切磋琢磨しながら日本代表選手となることを夢に日々練習に明け暮れた。家族との会話がきっかけでパラ陸上の存在を知り、自身の可能性を信じ転向を決意した。



高橋 峻也

トヨタ自動車所属
出身地:鳥取県
(愛知県 在住)

〈講演テーマ〉

『障害を武器に』(自己啓発)

『健常者の中で戦ってきた人生』(スポーツ)

『障がいが成長させてくれた』(人権)

〈プロフィール〉

3歳の頃、脊髄炎の影響で右腕の自由を失う。小学2年生から高校卒業までの11年間、野球部に所属し、片腕でプレーをした。高校3年時の夏に、鳥取県代表として甲子園に出場を果たす。高校時代にパラ陸上競技に出会う。肩の強さに自信があり、やり投げを始める。陸上競技人生を開始し、1年目から日本代表に選出。その後、3大会世界選手権に出場し全大会で入賞。2024パリパラリンピックでは6位入賞を果たす。ロスパラリンピックでメダル獲得に向けて、日々、競技力向上を目指して練習に取り組んでいる。